

IMAGE COMMUNICATION EQUIPMENT

Patent Number: JP8065479
Publication date: 1996-03-08
Inventor(s): MIURA SHIGEO
Applicant(s):: CANON INC
Requested Patent: ☐ JP8065479
Application Number: JP19950187597 19950725
Priority Number(s):
IPC Classification: H04N1/32 ; H04N1/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE: To provide an image communication equipment by which image data are sent while name information in response to a transmission destination is added to the image data.

CONSTITUTION: A key board 7b has plural known one-touch keys and a telephone number of a desired reception station is registered to each of one touch keys. In the case of registration, a destination company name, character information such as abbreviation, plural receiver names having the possibility of receiving an original in a same destination reception station in addition to a name such as department and individual names of plural senders of a transmission station as a conventional equipment are registered. The registered information is stored in a prescribed area of a RAM 9. When the reception station of the destination of the original is designated by the operation of one-touch keys of the key board 7b, the individual name of plural senders of a transmission station, name such as department or destination company name and character information such as abbreviation and the name of a receiver are added to the received image data and the result is sent to the designated destination.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-65479

(43) 公開日 平成8年(1996)3月8日

(51) Int.Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 N 1/32

F

1/00

B

審査請求 有 発明の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平7-187597
(62) 分割の表示 特願昭60-292977の分割
(22) 出願日 昭和60年(1985)12月27日

(71) 出願人 000001007
キヤノン株式会社
東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(72) 発明者 三浦 滋夫
東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
ノン株式会社内
(74) 代理人 弁理士 加藤 卓

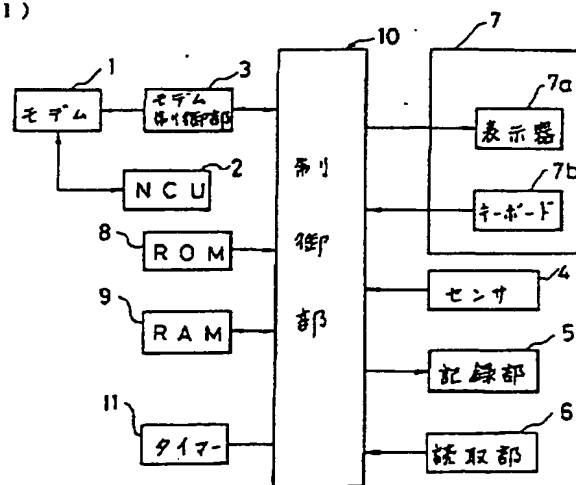
(54) 【発明の名称】 画像通信装置

(57) 【要約】

【目的】 画像データを送信する宛先に応じた名称情報を付加して送信することのできる画像通信装置を提供する。

【構成】 キーボード7bは公知のワンタッチキーを複数個有しており、このワンタッチキーそれぞれに対して所望の受信局の電話番号を登録する。また、この登録時には、同時に、従来どおりの発信局の複数の発信者の個人名、部署などの名称に加え、宛先の社名、略称などの文字情報、同一の宛先受信局内で原稿を受けとる可能性のある複数の受信者の名前などを登録可能とする。登録情報はRAM9の所定の領域に格納される。キーボード7bのワンタッチキーの操作により原稿の宛先の受信局を指定すると、発信局の複数の発信者の個人名、部署などの名称、あるいはさらに、宛先の社名、略称などの文字情報、受信者の名前などを入力した画像データに付加し、当該指定された宛先へ送信する。

(図1)



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 画像データを入力する入力手段と、前記入力手段で入力した画像データを送信する送信手段と、前記入力手段で入力した画像データを前記送信手段で送信する際の受信局の宛先を指定する複数の指定手段と、前記複数の指定手段のそれぞれに対応させて当該宛先に関する名称情報を記憶する記憶手段とを有し、画像送信の際、操作者が前記複数の指定手段の中から 1 つの指定手段を選択すると、この選択された指定手段に対応する宛先に関する名称情報を前記記憶手段から読み出し、前記入力手段で入力した画像データに付加し、当該指定された宛先へ前記送信手段により送信することを特徴とする画像通信装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は入力した画像データを受信局に対し送信する画像通信装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、この種の装置において、例えばファクシミリ装置ではドットマトリクスなどのイメージにより発信局の略称や電話番号、あるいはページ番号などを送信し、記録データの 1 ページごとに記録させる技術が知られている。このような発信元の情報は、あらかじめキーボードより所望の文字列を入力することによりメモリに登録し、さらにこれをキャラクタジェネレータなどを利用してイメージデータに直して送信することにより、受信側で画像情報として記録される。通常これらの情報は原稿の各ページの先頭などに記録される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、上記従来例では受信局側に関する情報を送信文書に付加して送信することができなかった。つまり、1 台のファクシミリ装置を大勢の人が利用している場合は受け取り人や受け取りの部署等を示しておかなければ受信局側で受信文書の配布を容易に行うことができず、この情報は手書きで書き込むようにしなければならない。

【0004】 しかし、ファクシミリ装置で送信される原稿には重要書類が含まれていることがあり、しかもそれがオリジナルである場合も多い。従って操作者は書き込みを行なう場合には、オリジナルが書き込みで改変されるのを防ぐために、(1) 原稿に鉛筆書きで書き込みを行い、送信が終了した時点でそれを消ゴムなどで消す。

(2) オリジナルの原稿をコピーし、それに書き込みを行って送信に用いる。(3) オリジナルの原稿とは別に受取人の名称等を書いた原稿を作り、それを原稿に先立ち、送信するなどの方法により受取人等を受信局側に伝えていた。

【0005】 従って、原稿の送信に伴う作業が非常に面倒で、またそれに要する時間も多大なものになるといっ

た欠点があった。

【0006】 本発明の課題は、以上の問題を解決し、画像データを送信する宛先に応じた名称情報を付加して送信することのできる画像通信装置を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】 以上の課題を解決するために、本発明においては、入力手段で入力した画像データを前記送信手段で送信する際の受信局の宛先を指定する複数の指定手段と、複数の指定手段のそれぞれに対応させて当該宛先に関する名称情報を記憶する記憶手段とを有し、画像送信の際、操作者が前記複数の指定手段の中から 1 つの指定手段を選択すると、この選択された指定手段に対応する宛先に関する名称情報を記憶手段から読み出し、入力手段で入力した画像データに付加し、当該指定された宛先へ送信手段により送信する構成を採用した。

【0008】

【実施例】 以下、図面に示す実施例に基づき本発明の詳細を説明する。

【0009】 図 1 は本発明を採用したファクシミリ装置の一実施例を示したもので、装置は従来のものとほぼ同様の構成を有している。即ち、原稿の読み取りは CCD ラインセンサなどを用いた読取部 6 で行なわれ、また受信した画像データは感熱プリンタなどを用いた記録部 5 で記録される。画像データの冗長度抑圧処理、さらに装置全体の動作はマイクロコンピュータなどから成る制御部 10 によって制御される。

【0010】 画情報あるいは手順信号などの送受信はモデム 1 を介して行なわれ、モデム 1 の変復調などの動作は制御部 10 によってモデム制御部 3 を介して行なわれる。モデム 1 は回線との接続ループの保持あるいは電話機との切換動作などを行なう NCU 2 を介して電話回線と送受信信号のやり取りを行なう。

【0011】 制御部 10 の制御プログラム、あるいは制御パラメータなどは ROM 8 に格納され、また送受信される画像情報は RAM 9 に記憶される。

【0012】 さらに装置は表示器 7a 及びキーボード 7b から成る操作部 7 を有しており、制御部 10 は操作部 7 からの操作入力に応じて送信及び受信を制御する。

【0013】 キーボード 7b は公知のワンタッチキーを複数個有しており、このワンタッチキーそれぞれに対して所望の受信局の電話番号に登録できるようにしてある。所定の操作を経て登録された電話番号は ROM 8 の所定の領域に格納される。

【0014】 また、この登録時には、同時に宛先の社名、略称などの文字情報が操作部 7 のキーボード 7b の所定操作により ROM 8 の所定の領域に登録される。

【0015】 本実施例では、さらに装置が設置される発信局の複数の発信者の個人名、部署などの名称をキーボ

ード7bから入力できるようにしてあり、入力された複数の発信者名称もまたROM8の所定領域に格納される。

【0016】また、同一の宛先受信局内で原稿を受けとる可能性のある複数の受信者の名前をキーボード7bから入力できるようにしてもよく、この場合にも入力された複数の受信者名称はROM8の所定領域に格納される。

【0017】以上の登録の際の文字選択は、テンキーや文字キーを用いた公知の文字入力方式を用いることができ、文字の種類もアルファベット、漢字、カナなど所望のものを用いれば良い。

【0018】ROM8の1部はEEPROMなどから構成し、電氣的な書き込み処理により上記の情報を格納する。記憶された情報は主電源遮断後も保持される。

【0019】ROM8に登録された複数の発信者名称の選択を行なうために、公知の各種操作キー、上記のワンタッチキーの外にさらに発信者選択キーが設けられる。選択制御に関しては後に詳述する。

【0020】なお、図1において符号4はセンサ部を示し、センサ部4は、原稿、記録紙などの有無を検出する公知の各センサから成る。これらのセンサは従来同様送受信ないし原稿コピー動作などの制御に用いられる。また、上記の発信局、受信局、発信者、受信者などの情報を画像情報として送信するため、不図示のキャラクタジェネレータなどの変換回路が設けられる。

【0021】また、制御部10に接続されたタイマー11は後述するように発信者の名称の選択制御に用いられる。

【0022】原稿の宛先の受信局の指定は従来と同様にキーボード7bのワンタッチキーの操作により行なう。また、このとき、前記の発信者選択キーを用いて、上記のROM領域に登録された複数の発信者の名称の1つを選択して同様にイメージ情報として受信側に送信する。

【0023】図2はワンタッチキーによる原稿送信時の発信者名の選択方式の一例を示した説明図である。

【0024】ここでは、複数の発信者は第1発信者、第2発信者…と言うようにある順位をもってROM8に予め登録され、またその選択もこの優先順位に基づいて行なわれる。

【0025】図2の操作では、送信動作時に発信者選択キーの押下時間に応じて複数の発信者の名称（この場合個人名）を選択するようにしており、まずタイミング0で発信者選択キーを押下すると符号71で示すように表示器7aには「〇〇〇社東京」と言う発信局の名称が表示され、さらにその下に「高橋」と言う第1の発信者名称Aが表示される。

【0026】発信者選択キーの押下を続けるとタイミングT1、T2、T3において各々発信者の名称が符号B～Dで示すように「渡辺」、「坂本」、「三浦」と言う

ように変化する。そこで、所望の発信者名が現れた時に発信者選択キーの押下を中止することにより、その時の発信者名が選択され、原稿画像にイメージデータとして付加され、受信側に送信される。

【0027】以上のような制御を行なうための制御部10の制御手順を図3に示す。図3(A)は発信者選択のためのルーチンを、また図3(B)は図3(A)の手順が行なわれている間平行して行なわれるタイマー11のカウント処理を示している。

【0028】図3(A)のステップS1は装置の待機状態を示しており、ステップS2で発信者選択キーが押下されない限りステップS1の待機状態が続く。

【0029】発信者選択キーが押下されると、従来同様、当該する発信者選択キーに対応する電話番号がROM8から読み出され、ダイヤルトーンなどの選択信号に変換して送信できるようRAM9の所定領域上に用意される。これとともに、ステップS3で発信者を指定するためのレジスタないしメモリ領域Nを1に初期化する。領域NがN=1の時は第1発信者、N=2の時は第2発信者…と言うように用いる発信者名が指定される。

【0030】次にステップS4ではタイマー11の計時によりカウントアップされるタイマーレジスタに1を転送して初期化する。そしてステップS5でタイマー11のカウントをスタートさせる。

【0031】図3(B)のステップS13でタイマー11がスタートされると、ステップS14でタイマー11は所定時間の計時を行なう。この時間は図2の時間T0～T1に対応する。

【0032】タイマー11は所定時間の計時を終了すると、ステップS15でオーバーフローによりタイマーレジスタを1増加させる。

【0033】一方、図3(A)ではタイマースタートの後ステップS6～S9のループに入る。ここではまず、ステップS6において、上記のように所定時間おきにカウントアップされるタイマーレジスタの値を読み出し、前記の領域Nに格納する。そして、ステップS7でN番目の発信者名が選択され、その文字コードがROM8の所定領域から取り出され、RAM9の所定領域に移される。

【0034】ステップS8ではこの発信者名の文字列が表示器7aに送られ表示される。操作者はこの表示をモニタすることにより、自分の操作が正しいかどうかを知ることができる。

【0035】ステップS9では操作部7の発信者選択キーの押下が続いているかどうかを判定し、押下が続ければステップS6に戻りループを繰り返す。

【0036】上記のようにステップS6～S9のループでは、選択キーの押下が続く限り所定時間ごとに用いるべき発信者名が切り換わり、同時にその表示も切り換わる。上記ループには最後の発信者名が表示されても押下

が続く場合も考えて、Nが所定数に達したらそれをリセットする判定ルーチンを挿入しておいても良い。

【0037】ステップS9において、所望の発信者名が表示されたところで発信者選択キーの押下を中止するとステップS10に移り、タイマーカウントが停止され、最後の発信者名がRAM9上に固定される。

【0038】ステップS11ではこの文字コードをキャラクタジェネレータを用いてドットマトリックスによるイメージデータに変換し、それをステップS12でRAM9の原稿画情報のための領域先頭部分に付加する。

【0039】ここでは、宛先の受信局の名称、略称、ページ数、通信モードなどイメージデータとともに発信者の名称が原稿の先頭部分に付加される。そしてステップS1に戻り、送信命令が入力されるのを待つ。

【0040】原稿がセットされ、ワンタッチキーあるいはスタートキーが押下されることなどにより送信動作が開始されると、読取部6により読み取られた原稿データは上記の宛先受信局名称、発信者名などの画像情報その他の情報の後の領域に格納され、その後従来同様の手続きを経て送信される。上記のメモリ格納、ないし送信の際に画像データはモデファイドハフマン、モデファイドリード符号に変換する冗長度抑圧処理が挿入されていると良い。

【0041】以上のようにして、受信側での記録結果は図4に示すようになる。図4は上記手続きを経て受信側に送信、記録された記録紙21を示しており、図示するようにまず先頭行には受信局の電話番号22、日時23、通信モード24、ページ番号25が記録される。

【0042】続いて2行目には受信局名称26が入り、さらに3行目に発信局の電話番号27と発信局の名称28、および、上記のようにして選択された発信者の名称（「三浦」）29が記録され、その後が実際に読み取られた原稿画像となる。ただし、記録フォーマットが上記に限定されるものでないのはもちろんである。

【0043】以上の構成によれば、予め装置が設置される発信局の複数の発信者の名称を登録しておくことにより、面倒な手書き、その他の作業を必要とせず、自動的に発信者名称が原稿に付加される。

【0044】以上の構成によれば、一旦登録を正しく行なえば、後は同じ発信者名が用いられ、また実際に送信される発信者名が表示されるので、誤まった情報が送信されるミスを未然に防ぐことができる。

【0045】また、本実施例の構成は、従来構成に選択キーを1つだけ設ければ実施できるので、装置の機成が複雑、高価となることがない。また、選択の際の操作も非常に簡単である。

【0046】以上では、発信者選択キーの操作時間により発信者名称を選択する例を示したが、発信者選択キーとは別に必要な発信者の数だけ、たとえば数個程度のキーを選択キーとして設けてもよい。この場合には各選択

キーを第1発信者、第2発信者…をそれぞれ指定するものとして全ての宛先に共通して用いる方法が考えられる。

【0047】また、図5のフローチャート図に示すように選択キーの押下回数による発信者名を選択するようにしても良い。

【0048】図5のステップS1、S2、S11、S12は図3の同じステップと同一のもので、ステップS2、S11の間のステップS20、S21が発信者選択のためのルーチンである。

【0049】ステップS20では発信者選択キーの押下回数が発信者名を指定するレジスタNの内容とされる。

【0050】即ち、ここでは選択キーの1押下ごとに発信者名が切り換わり、これに応じて表示も切り換わる。

【0051】そしてステップS21で所定キー（ここではストップキー）の押下によりその時選択（表示）されている発信者名が固定され、送信に用いられる。

【0052】図5のような処理によっても所望の発信者名を簡単に選択し、原稿画情報の先頭に付加することができる。

【0053】図1に関して、発信者名称のみでなく、受信局の複数の受信者名称も登録できる旨記載したが、上記と同様の手順により登録された受信者の名称を発信時に選択して画像情報として送信するようにもできる。選択にはワンタッチキーを用いることができる。ワンタッチキーを用いる場合には、図3、図5の手順は、「発信者選択キー」を「ワンタッチキー」と読み換えることにより受信者選択ルーチンとして用いることができる。すなわち、ワンタッチキーの押下により受信局が選択されるとともに、その押下時間または押下回数により受信者の選択が可能になる。もちろん、選択キーを複数設ける方式も受信者選択に利用できる。

【0054】図6は、発信者および受信者の名称を両方受信側において記録させた例を示している。図6の原稿21では、まず先頭行に受信局の電話番号22、日時23、通信モード24、ページ番号25が記録される。

【0055】続いて2行目には受信局名称26と選択された受信者の名称29'（「吉田様」）が入り、さらに3行目に発信局の電話番号27と発信局の名称28、および、選択された発信者の名称（「三浦」）29が記録され、その後が実際に読み取られた原稿画像となる。このような構成によって、発信者、受信者双方の個人名、部署名などの名称を書き込む必要がなくなり、送信操作は著しく簡略化される。

【0056】

【発明の効果】以上から明らかなように、本発明によれば、入力手段で入力した画像データを前記送信手段で送信する際の受信局の宛先を指定する複数の指定手段と、複数の指定手段のそれぞれに対応させて当該宛先に関する名称情報を記憶する記憶手段とを有し、画像送信の

(5)

際、操作者が前記複数の指定手段の中から1つの指定手段を選択すると、この選択された指定手段に対応する宛先に関する名称情報を記憶手段から読み出し、入力手段で入力した画像データに付加し、当該指定された宛先へ送信手段により送信する構成を採用しており、指定された宛先に関する名称情報が記憶手段から読み出され、入力手段で入力した画像データに付加され、指定された宛先へ送信されるので、面倒な作業を必要とせず、送信する宛先に関する名称情報を受信局に送信し、記録させることができ、操作の簡略化と通信の確定性を達成できる優れた画像通信装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明を採用したファクシミリ装置の一実施例を示したブロック図である。

【図2】図1の装置における操作例を示した説明図である。

【図3】(A)、(B)は図2の操作により送信動作を

行なう場合の制御部の制御手順を示したフローチャート図である。

【図4】受信側での記録例を示した説明図である。

【図5】図3と異なる制御手順を示したフローチャート図である。

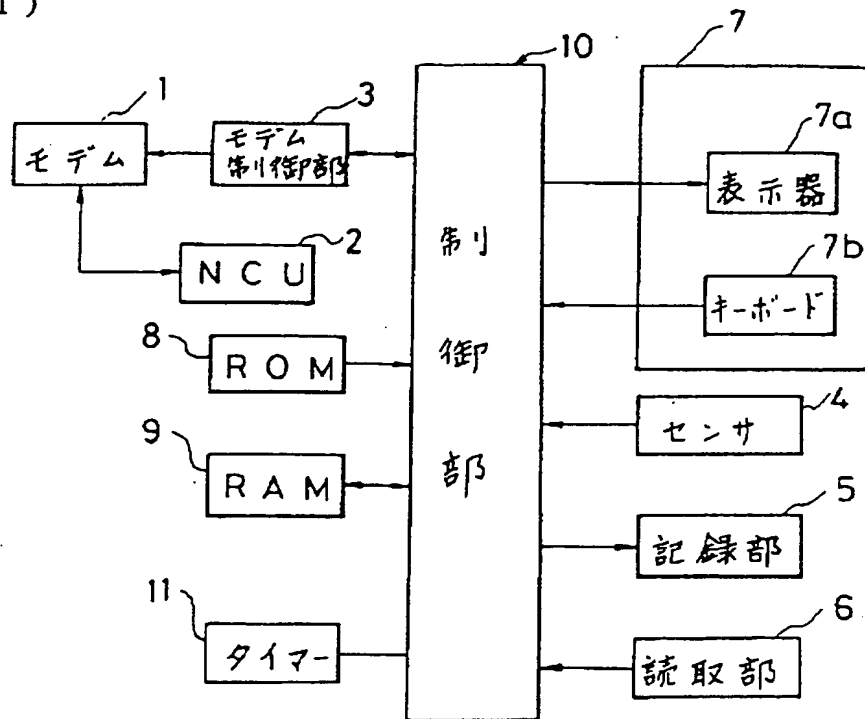
【図6】異なる実施例による受信側の記録例を示した説明図である。

【符号の説明】

- 7 操作部
- 7a 表示器
- 7b キーボード
- 8 ROM
- 9 RAM
- 10 制御部
- 11 タイマー
- 29 発信者名称
- 29' 受信者名称

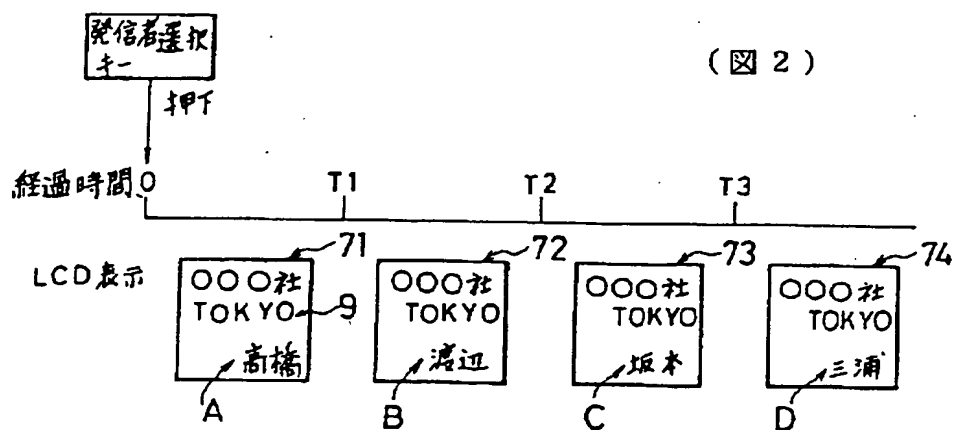
【図1】

(図1)



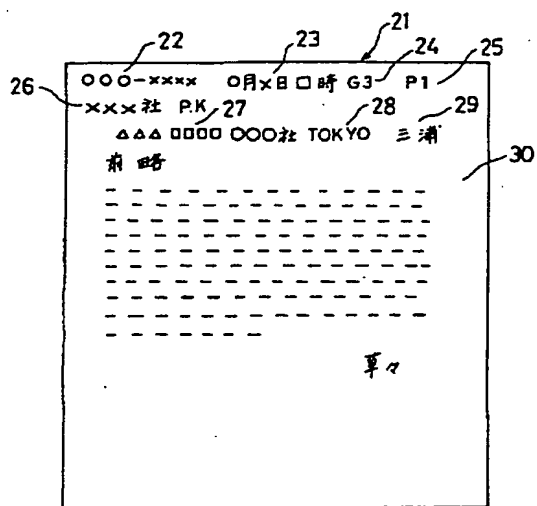
(6)

【図2】



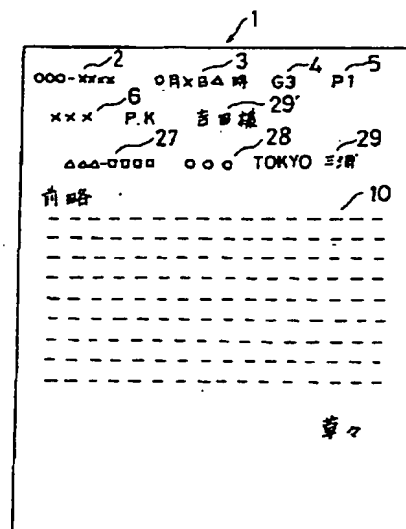
【図4】

(図4)



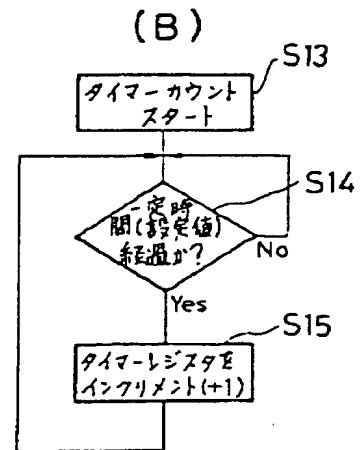
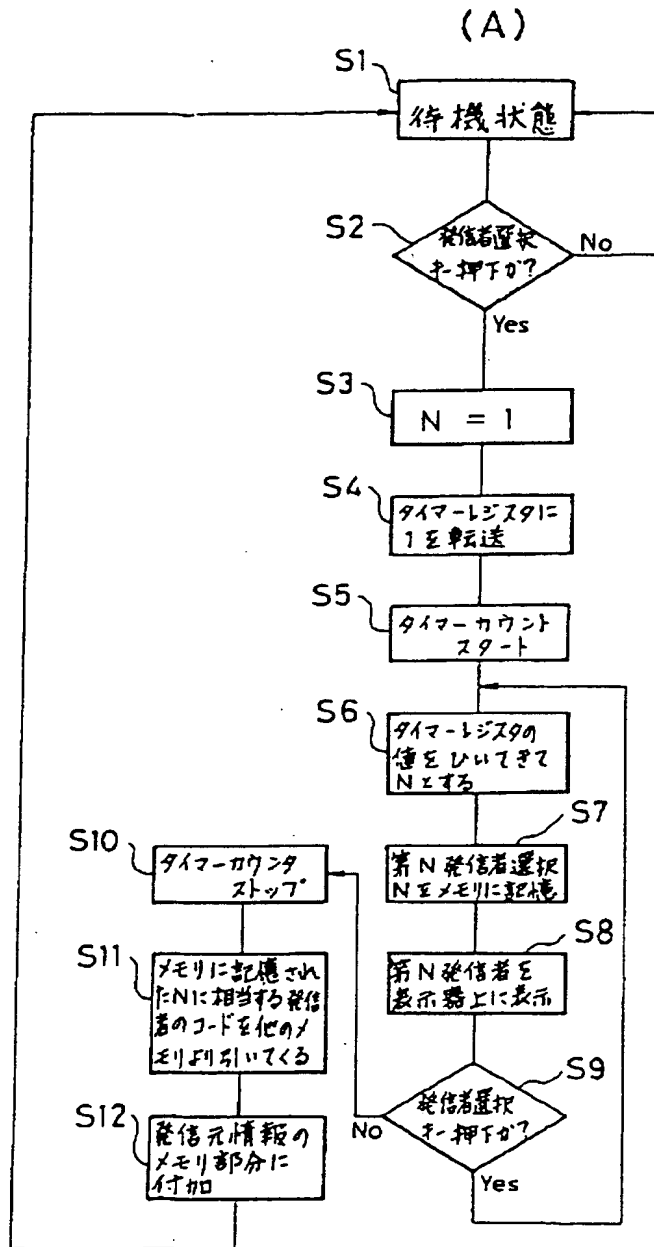
【図6】

(図6)



【図3】

(図 3)



(8)

【図5】

(図5)

